

研究区分	教員特別研究推進 地域振興
------	---------------

研究テーマ	壮年期の終末期がん療養者と家族のニーズと求める支援				
研究組織	代表者	所属・職名	看護学部・助教	氏名	長谷部 美紀
	研究分担者	所属・職名	看護学部・教授	氏名	林 みよ子
		所属・職名	看護学部・教授	氏名	山田 紋子
		所属・職名	看護学部・教授	氏名	田中 範佳
	発表者	所属・職名	看護学部・助教	氏名	長谷部 美紀

講演題目	壮年期の終末期がん療養者と家族のニーズと求める支援
------	---------------------------

研究の目的、成果及び今後の展望	<p>【目的】悪性新生物（以下、がん）は、終末期を迎えると急激に身体機能が低下する特徴があり、その介護を担う家族も身体的、心理的に影響を受ける。特に壮年期は、社会や家庭内の中心的役割を担う世代であり、その役割を引き受ける家族の負担は大きいと考える。国内外の研究の動向および知見を把握し、壮年期の終末期がん療養者と家族のニーズと求める支援を明らかにすることを目的とした。</p> <p>【成果および今後の展望】PubMed、CINAHL Plus、MEDLINE、医中誌 Web を用いて文献検索を行った。英文献は、“cancer, middle-aged, care giver, family, palliative care, end-of-life” 和文献は、“がん, 壮年期, 家族” をキーワードとし、4,789 文献が検索された。一次スクリーニングで、タイトルと要約から重複および対象が壮年期以外の 4,719 文献を除外し、二次スクリーニングでは論文全体を精読し、研究目的と異なる 54 文献を除外した。選定した英文献 7 件、和文献 9 件の 16 文献をマトリックス式および文献マップを用いて整理した。文献マップより、“壮年期がん療養者ニーズ”、“家族介護者のニーズ”、“死を見据えた支援” の 3 つのトピックを抽出した。まず、がん療養者と家族介護者のニーズの内容では、経済的なニーズが共通しており、この背景には、若い壮年期の療養者ではできる限りの治療を望むために医療費が高額になること、治療の影響や病状により仕事ができず収入が減少すること、介護のための離職や休職により家族の収入が減少することがある。また、経済的な苦悩は療養者の ADL 低下と関連し、うつ病のリスクを高めることから、深刻なニーズと捉える必要がある。療養者の経済的苦悩と社会的支援には負の相関があり、他者からの介護は経済的苦悩を低減する可能性が示唆されているものの、家族介護者は自分よりも療養者のニーズを優先する傾向があり、介護者自身の精神的健康に悪影響をおよぼすとの指摘がある。また、壮年期の女性療養者は、他者が家に入ることへの抵抗から配偶者に介護を依存するために、男性配偶者の負担が大きくなることが明らかにされている。さらに介護を担う男性配偶者は、長期的に妻の死を深く悲しむこと、子育てをひとりで担う重圧などさまざまな苦悩を抱えており、死別後に精神的健康が脅かされる懸念がある。一方、看護援助については、介護における自己主導感や適応的依存性が遺族のレジリエンスを促進することから、死別前からの介入が推奨されており、看護師は介護を担う配偶者の重圧を受けとめて死別への準備を促すなど“死を見据えた支援”をしている。しかし、死別後も続く男性配偶者の苦悩を軽減するための支援に関する研究はみあたらない。終末期にある妻を介護する男性配偶者の苦悩を軽減することは、その後の人生に影響する重要な支援である。そこで、男性配偶者に対する療養者との死別後を見据えた支援を検討するため、訪問看護師の支援の実際を明らかにすることを今後の課題とする。</p>
-----------------	---